

インターネット研究所  
ハジメ・コトー Jr. 所長

助手ロボット  
JP\_29 II



# インターネット ことはじめ

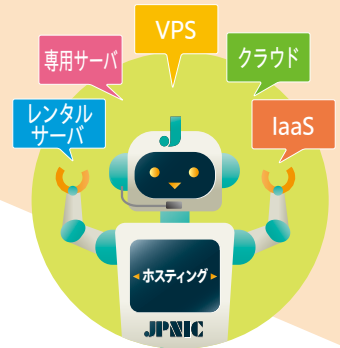


第26回

【テーマ】  
ホスティング

JPNIC

協力:株式会社日本レジストリサービス



## ホスティングとは

インターネットの普及とともに、Webサーバやメールサーバなどのサーバを提供する「ホスティング」というサービスが登場しました。ホスティングを利用することで、利用者は自分でサーバを維持管理する必要がなくなり、Webサイトや電子メールなどを容易に運用できるようになります。今回は、1995年頃から現在に至るまでのホスティングの歴史を振り返ります。



## 黎明期

1990年代前半、日本でもインターネットが徐々に普及し始めました。特に、1993年に公開されたブラウザ、NCSA MosaicによってWebのブームが起これ、Webサイトを利用するためにインターネットへ接続する需要が増えました。

しかしWebサイトを閲覧することが比較的簡単なのに対し、当時はWebサイトを公開するには自分でサーバを用意し、インターネットに常時接続する必要がありました。これには高額な専用回線や専門知識が必要で、当時の一般利用者や中小企業にとってはハードルが高いものでした。

こうした中、1995年頃から「レンタルサーバ」や「ホスティングサービス」と呼ばれるサービスが登場します。ISPが契約者に対してオプションサービスとして提供する場合もあり、利用者は手軽に自分のWebサイトや電子メールアドレスを持てるようになりました。

## 専用サーバの登場

当初のホスティングサービスは、1台のサーバを複数の利用者で共有する「共用サーバ」が主流でした。利用者はディスク容量やメールアカウント数などの制限がある中で、自分のWebサイトやメールを運用していました。

しかし1990年代後半には、企業などに向けて1台のサーバを占有できる「専用サーバ」サービスも登場し、より自由度の高い運用が可能になりました。

また普及に伴い価格も下がり、個人でも専用サーバを使えるようになりました。もっとも共用サーバとは異なり、専用サーバはサーバそのものの管理もユーザーが行うのが普通で、自由度が高い分技術的なハードルは少し高いものでした。

## 仮想化の普及

2000年代に入ると、インターネットの利用が一気に拡大し、個人ブログやECサイト、企業のコーポレートサイトなど、さまざまな用途でホスティングサービスが利用されるようになります。また、セキュリティやバックアップ、サポート体制の充実など、サービス内容も多様化・高度化していきました。

さらに2005年頃から、仮想化技術の進歩により「VPS (Virtual Private Server)」や「クラウドホスティング」といった新しいサービス形態が登場します。

VPSは1台の物理サーバ上に複数の仮想サーバを構築し、利用者ごとに仮想サーバ1台を占有利用できる環境を提供するものです。物理サーバに比べるとある程度の制約を受けるものの仮想サーバはCPUやメモリといったリソース増減の自由度が高く、即応性向上や低コスト化に寄与しました。

クラウドホスティングは仮想サーバをさらに推し進めたようなもので、必要な時に必要なだけリソースを利用できる柔軟性を特徴とします。急な規模拡大等にも対応しやすくなりました。

## 現代のホスティング

2025年現在、いわゆる「ホームページ」だけをサービスするホスティングは減少し、ブログなどの付加サービスを提供するホスティングが取って代わりました。しかしホスティングサービス自体は現在でも個人から大企業まで幅広く利用されており、Webサイトやメールだけでなく、データベースやWebアプリケーションの運用、IoTやAIなど新しい分野にも活用が広がっています。

特にクラウドホスティングは単なるホスティングの範疇に留まらず、新しいサービスの利用形態として発展、普及しています。ハードウェアを購入したりレンタルしたりするのではなく、サーバやネットワークをサービスとして利用するIaaS (Infrastructure as a Service)、同じくソフトウェアをサービスとして利用するSaaS (Software as a Service) といった形態もごく普通のものになりました。

インターネットの発展とともに進化してきたホスティングは、今後も多様なニーズに応えながら、私達の生活やビジネスを支えていくことでしょう。



「インターネット歴史年表」も見てね!!  
<https://www.nic.ad.jp/timeline/>

今回はモバイルデバイスの予定です。